



Lis Blanc

No.63

学報リスブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号
TEL 022-372-3254 URL <http://sendai-shiryuri.ac.jp>
編集/大学広報室

(転用・転載を禁じます)

本号の主な内容

- 01 クリスマスを迎えるにあたって
- 02・03 学長・学生懇談
- 04 ボランティアレポート
- 05 卒業式にかえて、ゼミ・研究室訪問
先生方の活躍、クリスマスリース作り
- 06・07 留学生紹介、部活サークル紹介
- 08 クリスマスの集い、卒業生の職場訪問
- 09 現地実習、トピックス
- 10 お知らせ、白百合をふり返って
- 11 財務報告、フォトコンテスト
セントポール大学との交流
- 12 入試情報、編集後記



平和の君なるイエス

カトリック研究所 所長
原田 雅樹

およそ二〇〇〇年前に、イエスはパレスチナの地で生まれた。平和の君として。神と人間が、人間と人間が和解するために。

現在、パレスチナの地は、紛争のしるしとなつてしまっている。イスラエルは、パレスチナ人たちの土地を奪取し続け、水源地を自らのものとし、挙句の果てには、イスラエルとパレスチナ人の住む境界の近くに、パレスチナ側にぐつと食い込むようなかたちで、イスラエルは分離壁を建設した。イエスが生まれたとされるベツレヘムのすぐ近くにも、この分離壁が通り、検問所ではパレスチナ人に対する日常的な辱めがなされている。

そして、二〇一二年も終わろうとしている時、再びイスラエルは、パレスチナのガザを攻撃し、人々の命を奪い、インフラを破壊して、彼らが人間らしく生きる手段を剥奪している。

パレスチナの北側、聖パウロが回心

したともいわれるダマスコもあるシリアは、内戦状態に陥り、毎日、多くの人々が命を落としている。

正義や命が、現在、最も踏みこじられている、まさにその地において、イエスは生まれた。大きな悪の力が、人々の「ひととつながり合い、分かち合って生きたい」という正当な叫びを押し殺している場所に、イエスは生まれた。

日本でも、三・一一以降、多くの人々が「ひとと、そして自然とつながり合い、分かち合って生きたい」という声をあげている。しかし、それを押しつぶそうという動きは存在し続け、また、大きな力に巻かれるしかないという半ばあきらめの気分も漂い始めている。

父なる神が、真の人となった子である神イエス・キリストに託した希望、人間と人間、人間と自然、人間と神が和解するという希望に、私たちがも参入していくことができますように。



存在の不思議

カトリック研究所 前所長
岩田 靖夫

毎日、秋晴れが続き、空気は爽やかで、そよ風が心地よく、今は一年でもっとも快い季節である。生きていることが嬉しい。私だけではないだろう。おそらく、大部分の人々は喜んで生きている、と思う。人間だけではない。小鳥も、海の魚たちも、山の木々も、コスモスの花も存在の喜びを歌っているだろう。宇宙全体が存在の喜びの交響曲を奏でている。

だが、存在はどこから来るのだろうか。私が、存在についていくらか分かつていることは、自分自身の存在についてだけである。私は自分の力で存在しているのではないことは、はっきり分かっている。なぜなら、いずれ必ず死ぬからである。他のすべての存在者についても、多分、事情は同じであろう。万物は、どこからか知らないが、存在を贈られているのである。私も君も宇宙の中の万物も、顔のみえない存在の贈り手から存在を

贈られて、兄弟姉妹なのだ。その贈り手の顔を見た者は一人もいない。人々は、その方を、神、仏、ヤHVエ、天、タオ、ブラフマン、などなど、いろいろな名前と呼んで、畏れたり、感謝を捧げたりしているが、その方がどういふ方かは、誰もはっきりとは分かっているのではないのである。

キリスト教徒とは、イエス様がその方がどんな方かを教えてくれた、と信じる人々である。イエス様は、その方は「愛のエネルギー」である、と教えられた。限りなく優しく、限りなく寛大な、われわれの父親、それが万物の創造主である、と教えてくださったのである。

だから、われわれは安心して、万人の兄弟になり、鳥や魚の親戚になり、樹木やせせらぎの友となつて、万物の根源のうちに抱かれていて、と考えてよいのではなからうか。



学長と語ろう 仙台白百合女子大学で 学ぶということ

一〇月二十六日、初めての試みとして任意の学生六人が参集して、石出信正学長と懇談する機会を得ました。出席したメンバーは、次のとおりです。

- 石出信正学長
- 岡崎史浦（国際教養学科四年）
- 千田彩香（同三年）
- 島山佳那子（人間発達学科三年）
- 鈴木智子（同二年）
- 須藤綾（健康栄養学科三年）
- 早坂真美（総合福祉学科四年）
- 進行役（大学広報委員）

進行役 皆さん、こんにちは。本日は、仙台白百合女子大学をより良いものにしていくことを目的としてお集まりいただきました。でも、堅苦しいことは考えず、ざつとばらんに話し合いましょう。まずは身近な質問から。入学前にあった白百合のイメージはどのようなものでしたか？入った後の印象は変わりましたか？なぜ白百合に入学したか等のお話を聞かせてください。

岡崎 私の場合、第一志望校の受験に



千田 留学でつちかった英語力を落とさないために、映画やドラマの字幕付きのものや字幕なしのものを何回も見ています。

早坂 私は、社会保健福祉士と精神保健福祉士の国家試験合格を目指しています。将来は、被災地で働きたいと思っています。

学長 確かに本学の福祉の先生は現場に強い人が多いですね。

島山 震災後、福島でボランティアをして考えが変わりました。将来は、心理カウンセラーをめざしたい。

須藤 入学後、管理栄養士の資格をとることだけ考えていましたが、実際に

失敗したところ、高校の先生から白百合の国際教養学科だったらいろいろなことが学べるよと薦められて入りました。驚いたのは、想像以上に頑張っている人が多いということ。様々な授業をとれるのがいいと思いました。

千田 私は姉妹校出身なのですが、大学は自由でオープンに感じました。英語とドイツ語を学べるのは、県内では



行って知識が必要だと感じました。今は、人の健康に関わる仕事に就きたいと思っています。

学長 本を読んで勉強することともに、現場で助けが必要な人と時間を共有することも大事です。キリスト教の精神と建学の精神と同じですね。

須藤 誰かのために何かをしたい。人を笑顔にしたい。

学長 「世界は一〇〇人の村」と考えれば、たとえば国際間の問題などお互いが笑顔でさてどうする？なんて考えれば変わってくると思うんです。

岡崎 私の場合、今したいことは、内定した証券会社の外務員の資格をとることです。

千田 夢は世界中を旅したい。私はひきこもりだったのですが、留学して出歩くようになりました。旅行資金のためにも働きます。

学長 私も一時引きこもっていた時期があったんです。でもそれは「心の旅」であって、そのような時期があってもいいと思う。

進行役 それでは最後に、何か要望があれば、学長にお願いしてみましよう。

千田 もっと留学生のいるインターナショナルな大学にしてほしい。

学長 大学が人種のサラダボールになるといいですね。

白百合しかなかったこと、家からも近いということから選びました。

島山 お嬢様学校というイメージが強かったです。入学して思ったことは、一人ひとりが輝いているということです。

鈴木 私もお嬢様学校と思っていました。入ってみると、個人的な感じがよく、先生自らいらして説明してくださったんです。先生との距離が近いと感じ、入学を決めました。

須藤 入学して思ったのは、積極的に親しみやすい人が多いことです。父の薦めと、オープンキャンパスに来て印象がよかったから入学しました。

早坂 私は共学の高校だったので、入る前は、女同士のプライドのぶつかりあいなどあってこわそうだと思っていました（笑）。ところが、入学してみるといい人が多い。女子だけの居心地の良さが四年間通ってききました。

学長 皆さん、大学の特徴をよく捉えていると思います。高校は、ある意味縛りがありますけど、大学は大人として扱うということなんです。白百合の「一人ひとりのいのちが輝くため」のキャッチフレーズがあるように、一人ひとりの個性を大事にする。それには、マンモス大学とできないわけでは



島山 私はカウンセラーになりたいので、大学院ができると思います。

学長 本学も大学院を作ろうとしたところがあるのですが、様々な条件を検討した結果、今は設置していません。そのかわり毎年、大学院に進学している人が複数います。

鈴木 サークル活動が目に見えるようになるのですが……。

学長 活動をサポートしていきます。後援会ができて、スチューデントハウスに冷房設備を入れました。

岡崎 叱らない先生が多い。叱らないとわからない学生もいると思う。

学長 悟らせることに重点をおいているつもりだが、叱り方は難しい。ただし外向け、たとえば実習等については



小規模な方がやりやすい。女子大のメリットは、自分たちで好きなように活動することができる。男女共学となると男子がリーダーになって、女子は指示される側にたちやすい。ですから女子大の方がリーダーシップが自ずと育まれると思います。それは今、企業も考えているんです。会社でリーダーシップもとれる女性として、女子大からもとりたいたいと思っています。

岡崎 そうですね、女子大でリーダーシップが育つと思います。自分が率先してやらないと誰もしませんから。

進行役 ここに集まっている皆さんは、積極的な人ばかりなので、将来が楽しみです。ところで、皆さん、今熱中していること、将来の目標や夢があったら教えてください。

かなり厳しくしています。

進行役 それでは、学長の方から学生への要望はありませんか？

学長 大事なことは個性です。大学もひとりひとりのindividualityを大切にしたい。これにつぎると思います。

進行役 今日は皆さん、ありがとうございました。

大学広報委員 始終なごやかな一時間ほどの談話でしたが、紙面の都合上学長のダーウインのエピソード等割愛せざるを得ませんでした。残念です。ご了承下さい。



Report 仮設居住者対象の料理教室 ボランティア支援活動



健康栄養学科准教授 高澤 まき子

食 事の栄養バランスは正を導くために味の素(株)では、移動式調理台を使って仮設住宅地域において料理教室を行って、被災地を支援しています。この味の素(株)が主催する料理教室に、九月より、月三回程度、健康栄養学科の先生方や学生たちがボランティアとしてかかわっており、私はその窓口をさせて頂いております。「ひとと地域を元気に、おいしく、楽しく、健康に」と心と食の復興をスローガンに、仮設同居者同士のコミュニケーションを図る、料理を通して食事の栄養のバランスを伝える、宮城の特産物や伝統食に興味を持ってもらい郷土を愛するきっかけを与えるなどを目的として行っています。平日ということもあり、集まった方々は六十歳代が多いので

すが、毎回料理を頂きながら、たわいない会話がはずみ、楽しく和気藹々とした教室となっております。参加者の皆さんから「次回も参加したいのだけれど、いつ来てくれるのか」との声を頂くほど、喜んで頂いております。この料理教室をきっかけに、参加者同士知り合うことができ、絆も少しずつ深まっていくようです。これまでの料理教室の会話の中で、仮設住宅内の生活の様子や今後の見通しなどを伺うことが出来ました。「頑張れ、東北」「頑張れ、宮城」をキャッチフレーズに復興に邁進しているようですが、個々人の現実を伺うと復興までにはほど遠いように感じました。これからも出来るところで被災地支援の活動を続けていきたいと思っております。

「夏休みフリースペース」に参加して



国際教養学科2年 長谷川 睦美

夏 休みの五日間、福島県で小学生を対象としたボランティアに参加しました。原発で学校に行けず、勉強が遅れている子どもたちのために企画されたものです。このボランティアには、その他東京大学、明治大学の学生など、関東の方からもたくさん参加しました。このボランティアを企画したPTAの斉藤さんは、「津波で親や親戚、友達を亡くした子どもも多く、原発のせいによって自由に外に出られなくて、子どもたちにストレスが溜まっている」とおっしゃっていました。テレビではもう取り上げなくなってきた現場の生の声を聞いて、まだ苦しんでいる人々がたくさんいることを改めて知りました。私は、教職をとっています。自分

の教える力がどれくらいのものかと思ってしまう。しかし、実際に子どもたちに接してみると、自分の教えることがうまく伝わらなくて焦ってしまい、結構苦勞したこともありました。それでも「むっちゃん！遊ぼう！」「むっちゃん、ここはどうすればいいの？」と子どもたちに頼られると嬉しく、しだいに教師になりたいという夢を叶えるための貴重な一歩になったと思っています。私は、今も教えていた小学生に手紙でやり取りをし、問題を作って送っています。このようなボランティアにまた参加して、自分も高めていきたいと思っています。

▶ ボランティアを通しての学び



総合福祉学科1年 高橋 礼恵

私 は将来、精神保健福祉士の資格を取得しようと考えて、毎日福祉関係の勉強をしています。最近のは、先生の講義の内容もより専門的となり、専門用語も多くなってきました。そのような中、松島で精神保健福祉分野の全国大会があると先生から紹介され、大学での授業が少し身近に感じられるのではないかと思い参加することにしました。

当日は、朝八時に現地に集合し、写真撮影や録音、タイムキーパーなどのお手伝いをさせていただきました。全国から集まられた医師や精神保健福祉士などの専門職の方の熱心な討議や発表を目の当たりにし、緊張したと同時に、授業で先生がおっしゃっていたことと、何となく結び

▶ 私たちができる支援



人間発達学科3年 芳賀 董 深瀬 裕加

私 たち、人間発達学科幼稚園教諭・保育士養成課程三年生五名は、東日本大震災の影響により、福島県から自主避難をし、山形市内で生活を送っておられる五〜六組の親子を対象とした「絵本読み聞かせボランティア」を九月六日(木)に山形市内にある公民館で行いました。ボランティアでは、絵本の読み聞かせだけではなく、新聞紙を使ったゲームやダンスなどを通して、子どもたちの笑顔とお母さん方の笑顔をたくさん見ることができました。



たち学生ができる支援を一所懸命に考え実施していきたいです。

卒業式にかえて

東日本大震災の影響により、2011年3月18日に予定していた学位記授与式は残念ながら挙行することができませんでした。2010年度の卒業生は卒業という区切りを実感できないままに、震災の傷跡の残る社会に巣立っていかねばなりません。その後しばらく経って震災の影響が回復してきた時に、卒業生の有志が各々で卒業を祝う集まりを開き、改まった気持ちで大学生から社会人へと「卒業」していきました。右は国際教養学科有志の記念写真です。卒業生たちは皆晴れやかな表情で出席していました。



国際教養学科学位記授与式 2012年6月30日

研究室訪問

岩淵せつ子 研究室

本学では、管理栄養士養成課程の中の食品加工分野を担当、また食品材料学、食品機能論などの科目を担当しています。

社会活動としては、宮城県主要農作物品種審査委員会、仙台市学校給食運営審議会委員などでご活躍です。

先生の学生時代は、同級生百五十名の学生の中で女子学生は割の十名という男性ばかりの環境でした。社会ではケネディの暗殺、ベトナム戦争第一号、東京オリンピック、ベトナム戦争などが背景にあった時代でした。

昭和四十年代、国民一人あたりの米の消費が百二十キロあった時代でした。現在は米の消費が六十キロを切っている時代であることを聞かされ、食生活の変化に驚かされました。

ご研究は、大豆製品摂取とヒト健康機能の改善、米粉の利用拡大について。主



岩淵せつ子先生プロフィール

宮城県登米町出身。
東北大学農学部農芸科学科卒業
農学博士。
東北大学に二十九年間勤務後退職。
一九九六年、仙台日百合女子大学人間学部健康栄養学科助教授として就任。
二〇〇一年、同学科教授。

助教の 四家 昌博 先生 アジア国際音楽コンクールでトップに

去る8月17日、日本音楽審議会が主催するアジア国際音楽コンクール2012が旧東京音楽学校奏楽堂にて行われ、本学人間発達学科助教の四家昌博先生が、ピアノ社会人部門において見事1位の成績を収めました。

来年3月には、オーストリアのウィーンにて行われる、入賞者による演奏会にも出演の予定です。



クリスマス・リース作りを 一緒に楽しみました

日時 2012年11月17日(土) 10:00-12:00
講師 鈴木みゆき先生
参加学生 6名

キャンパス内でクリスマスを楽しんでほしいという、宗教委員会の企画の一つとして、このイベントが実施されました。個人差がでるか心配しましたが、できればは、どれも全て写真でみるような本物の手作りのリースが出来上がりました。いよいよアドヴェントが近づき、このキャンパスもクリスマスの雰囲気が少しずつ出てきています。



韓国 カトリック大学校
国際教養学科 二年 松岡南実

私は語学上達と韓国の歴史・文化を学ぶことを目的として韓国にきました。例え日本では食事をすることがお礼を持つて食べるのが礼儀とされていますが、韓国ではお礼を持ち食事をすることは行儀の悪いことです。このように海外に出ると、自分の当たり前だと思っていた考えが、いとも簡単に覆されてしまうことが多々あります。このことで「こうでなければいけない」といった先入観をもつことが少なくなりました。韓国人は情があつてはつらつとしていて、フレンドリーな人が多いです。私も韓国人の友達に、生活面はもちろん様々な面で助けてもらいました。この経験を生かし、日本に帰ってから積極的に海外にかかわって活動していきたいと思っています。



カナダ ヴィクトリア大学
国際教養学科 三年 千田彩香

私が今回のカナダへの留学で得たものは、世界中の友人との出会いである。お互い言葉が通じない中でも、身振り手振りでコミュニケーションをはかり、たくさんの友人を得ることができた。その付き合いの中で学んだことは多い。例えば、他国の文化を尊重しなければ、他国の人と良い関係を築くことはできないということだ。また、自分の意見をきちんと伝えることの大切さである。意見をはっきり言わなければ相手に理解してもらえない。まだまだ語り尽くせないが、留学を通して学んだことは非常に多く、大変有意義な経験をする事ができ、とても嬉しく思っているし、そのような機会を与えてくださった方々に感謝している。

アメリカ UC Riverside校
国際教養学科 三年 長澤今日子

二〇一一年九月から一年間、提携校であるUC Riverside校に語学留学をしました。ホストファミリーや家族、友達に支えられ、あつという間に留学期間が過ぎてしまいました。私は幸運にもホームステイ先に恵まれて一年間同じお宅でお世話になり、HalloweenやThanksgiving Dayなど、ほぼ毎月のようにあるアメリカのイベントを堪能することができました。多くのクラスメイト達は、韓国、中国、台湾、サウジアラビアからでした。

自分達の文化や政治について話し合う機会が多く、アメリカに行ったことで日本を客観的に見るということができるようになったと思います。また最後の学期ではEnglish Business classをとり、チームを組み、この世に存在しないものやサービスをつくり、自分たちの会社をつくりあげるというをしました。語学の他にもプレゼンテーション力やdiscussion力を培えたと思っています。そして何よりも、日本中そして様々な国から集まった仲間に出会えたことに感謝です。この経験はこれからずっと生き続けていくでしょう。支えて下さった先生、家族そして友人に深く感謝申し上げます。



韓国からの大学生
総合福祉学科 二年 金慶玉



私は総合福祉学科二年の金慶玉です。二〇〇九年韓国から来て、今は本校で社会福祉と介護福祉を勉強しています。

今年日本での四回目の秋を迎えることになり、日本の美しい自然を楽しみながら過ごしています。今は日本の生活にも慣れ、秋の素晴らしい自然の色が心まで染み込み感動しています。しかし、日本にきたばかりの頃は、日本語を習うことで精一杯でした。私が勉強する福祉分野は特に「気づく」ことが大切です。「気づく」ことができれば何も新しいことは生まれません。

私は福祉を学ぶことによって、福祉の様々なことに気づかされています。勉強が終わり、国に帰れば日本で体験したこととをいかし、人々の役に立ちたいと思いつつ、楽しく勉強しています。

オーストラリア ニューサウスウェールズ大学
国際教養学科 二年 川村翔子



オーストラリアに来て約二ヶ月が経ち、ようやく生活に慣れ、落ち着き始めた。二ヶ月の間には、様々な国の人々とのたくさんのお会いがあり、また別れもあつた。国籍はもちろん、さまざまな年齢、宗教、価値観、習慣をもつ人々と接することにより、私は「日本人」であるということを意識するようになった。異国での「日本人」という自意識は、時に誇りに思うこともあり、いやに思うこともある。他国の人や異文化への理解は、留学前に思っていたものよりもそう簡単にできることではないと実感した。これからも続く予期することのできない出会いをしっかりと受け止め、大切にしていきたいと思っています。



半年間不安を全く感じせず、帰国時期を延期したいと思わせるほど支えて下さったセントポールの先生方、友達、寮さんたち、事前にサポートしてくださった百合の先生方には本当に感謝しております。

「中国人留学生の紹介」

日本に留学生としてきてからまだ間もないですが、日本語がとても上手で、図書館の仕事(サポーター)も一生懸命してくれています。



2012年度の中国山西大学商學院からの留学生 名前(写真左から)、李嘉(リカ)、王婧滄(オウセイユ)、廉涛(レントウ)、刘璇(リュウセン)

部活・サークル紹介



書道部部長 小柏いくみ

書道部は、部員十七人で活動しています。私たちは「多くの方に書道を通して皆さんの感動を与えたい」ということをモットーに、楽しく、時には厳しく、時間を忘れてしまうほど一生懸命日々練習に励んでいます。部員全員が、とても仲が良く、和気あいあいとした雰囲気でも活動することもあれば、一方で、作品展への出品や段級取得試験前になると、部員一同自分に厳しく真剣に打ち込んでいます。

大学祭では多くの方に書道を知ってもらうチャンスなので、私たち自身が楽しく製作活動に取り組み、精一杯の作品を仕上げました。書道部は、結成してから二年が経ちました。これからも、支えてくださっている方々への感謝の気持ちと仲間を大切に活動していきます。

バドミントン部部長 星 瑞希

バドミントン部は、一年生から四年生合わせて二十二名で活動しています。私たちは毎年、春季大会、東北地区大学体育大会、秋季大会、新人戦といった大会に参加しています。

バドミントン部は、経験者はもちろんのこと、未経験者も多く、ただ体を動かしたい人など様々な人が集まり楽しく活動しています。また、学年に関係なく部員全員が仲が良く、個々の技術の向上やチームワーク向上を目的に自分たちで練習メニューを考え練習しています。

昨年は震災の影響などで参加できない大会もありましたが、今年一年生が多く入部し、部員全員が積極的に大会に参加してくれたので、様々な大会で結果を残すことができました。これからも部員全員仲良く、楽しく活動していきたいと思っています。



仙台白百合女子大学 2012年度クリスマスの集い

日時	2012年12月20日(木) 10:00~15:00
会場	本学講堂
当日のプログラム	10:00~11:30 クリスマスマサ 司式：原田雅樹神父(ドミニコ会司祭)
	13:00~14:00 クリスマスコンサート ①四家昌博(ピアノ演奏) ②仙台ハリストス正教会聖歌隊(合唱)
	14:00~15:00 クリスマス会(本学学生のみ)

クリスマスミサ&コンサートに参加ご希望の方は氏名・郵便番号・住所・電話番号をご記入のうえ、下記までお申し込みください。
(本学学生は申し込み不要)

お申し込み・お問い合わせ先：仙台白百合女子大学 大学広報室

〒981-3107 仙台市泉区本町6番1号

Tel. 022-374-4475 (直通) FAX. 022-374-5082 E-mail: koho@sendai-shirayuri.ac.jp

クリスマスを迎え、世界の人々とともに、友人とともに、
世界の人々の幸福のために、友人の幸福のために一緒にお祈りしましょう。
「初めに言があった。言は神と共にあった。万物は言によって成った。
成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。
言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている」
(ヨハネによる福音書の冒頭)



卒業生の職場訪問

今回私たち学生広報スタッフはリコー
ジャパン株式会社を訪問し、仙台白百合女
子大学人間学部人間発達学科OGの國分千
春さんにお話を伺ってきました。
現在國分さんは、オフィス空間のデザイ
ンをお客様へご提案したり、社内での環境
対策、省エネ活動などの取り組みをお客様
へご紹介したりしています。
インタビューでは、仕事をしていて嬉し
かったこと、仙台白百合女子大学に入って
良かったことなどを伺いました。

インタビューを終えて

國分さんは仕事をする中でお客様から直
接「ありがとう」という感謝の言葉やお褒
めの言葉をいただいたことが嬉しくそれが
やりがいにもつながっているそうです。ま
た、國分さんが本学に感謝していることが
あるとのことでした。それは、社外の方と
関わる中で本学の出身者についてお褒めの
言葉をいただいた為だそうで、これは白百
合教育の歴史があり、有名であることに
関わっているように感じました。國分さん
は大学時代、勉強に限らず様々なことに力
をいれたそうです。時間を確保しやすい学
生の内々できることを見つけ、今しかでき
ない体験を大切にしていきたいと考えまし
た。(三宅)

インタビューの時に國分さんから、常
にお客様の為に何が出来るのかを考え
ながら仕事に取り組んでいるというお話を伺
い、相手の立場を尊重することは仕事を
する上でとても大切な事なのだと思います
。また、インタビューの後、私たちは國分
さんが普段働いているオフィスを見学させ
ていただきました。



ただ今事が出来ました。國分さんが「お客
様がいらっしゃいました」と言うと、オフィ
スにいた社員の方全員が一斉に立ち上がり
、「いらっしゃいませ」と私たちが歓迎して
くださったのがとても印象深かったです。そ
の光景に少々驚きましたが、深く感動しま
した。(宗像)

國分さんは優しい方で、私たちの質問に
対して丁寧に答えてくださいました。柔ら
かい話し方で落ち着いた雰囲気、國分さん
は、仙台白百合女子大学の先輩として素敵
だと感じました。今回、家庭を持ちなが
らも仕事をして輝いている卒業生の方とお話
する貴重な体験をさせていただき、感謝し
ております。とても有意義な時間を過ごす
ことが出来ました。
本当にありがとうございました。



国際教養現地実習

国際教養学科 三年 洞口成美

九月三日から二十一日まで、アメリカの
カリフォルニアで国際教養現地実習が行わ
れた。はじめてホームステイをした約三週
間は、驚きの連続だった。

スーパーでは、商品を入れる袋をたくさ
ん使うので、アメリカではまだ「エコ」と
いう考えが定着していないのかなと思っ
た。UCRは、敷地内に信号やレストランが
あるほど広い。
ホストファミリーがフィリピン人だった
ので、フィリピンの料理をいただくこと
ができた。

二軒目のホームステイ先では、中国人学
生と仲良しになった。彼女はそれまで海外
体験がなかったのに、英語が堪能だった。
自分の英語力の低さにショックを受ける
こともあった。だが、様々な国の英語の発
音の違いが面白いと思った。
実習は、とても楽しかった。ホームシ
ックを心配したが、履修してよかったと思
う。もし、機会があればまた行きたい。



泉マルシェ報告

二〇一二年九月十五日土曜日
に泉中央のペDESTロ
アンデッキにて泉マル
シェが開催されました。
当日は、大学広報委
員と百合学園の教員
の方々、本学学生スタ
ッフがスタッフとしてア
ンケートの依頼や大学
や学園の宣伝に忙しい
一日を送りました。今
年はのぼり旗を立てて
アピールしました。地
域の方々や卒業生、さ
まざまな方がブースを
訪ねてくれました。



「第47回白百合祭」報告

大学祭実行委員長 高橋 奈保美

十月二十七日(土)二十八
日(日)に第四十七回白
百合祭が行なわれ、今年も無
事に終えることが出来ました。
日曜日は雨がとても心配でし
たが、空も白百合祭を見守っ
てくれるかのように持ちこたえ
てくれました。ゲストライブでは
千葉雄大さんをお招きし、白
百合生も一般の方々も共に楽し
んでいただけたのではないかと
思います。

もっともつと白百合祭を楽し
くしよう！と、実行委員のリー
ダーたちを中心に活動してき
ました。人の上に立ちチームを
引っ張っていくこと、また、何

かを変えることはとても難し
く、悩んだ時もありましたが実
行委員会の仲間や先生方、職員
の方々等たくさんの方に支えら
れ、やり遂げることが出来たこ
とにとても感謝しています。
今回に限らず、何かをやり
遂げるためにはその陰にたくさ
んの時間や労力があるというこ
とを忘れずに、来年は更によい
白百合祭になればいいなと願っ
ています。

最後になりましたが、企業の
方々のご協賛、多くの方々から
のご協力、ご支援をいただきま
して心より御礼申し上げます。

学生広報スタッフ紹介

リスブラン
六十二号で広報ス
タッフを募集しま
したところ、五人
の学生が応募して
くれました。さっ
そく泉マルシェや
フォトコンテスト
などで活躍して
くれました。
写真右から国際
教養学科の宗像麻
美・雲然瑛子・三
宅亜佑美、人間発
達学科の鈴木智
子・佐藤杏奈の皆
さんです。



大学広報ラジオ収録

健康栄養学科4年 五十嵐 巳咲貴



今回、大学の広報のためのラジオコマ
ーシャルの収録をさせていただきました。
アクセントを強くするところ、声の出し方な
どなかなか上手くいかなく苦労しました。
しかし、とても良い経験になりました。この経
験を生かし、
大学を卒業
し、就職して
からも頑張っ
ていこうと思
います。この
ような経験を
させていただ
き本当に感謝
しています。

資金収支計算書 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで (単位 円)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,312,104,000	人件費支出	1,019,395,272
手数料収入	19,840,000	教育研究経費支出	402,485,234
寄付金収入	101,409,912	管理経費支出	105,932,698
補助金収入	401,049,773	借入金等利息支出	32,930,100
資産運用収入	1,859,453	借入金等返済支出	157,760,000
資産売却収入	0	施設関係支出	3,122,700
事業収入	5,147,000	設備関係支出	22,276,341
雑収入	43,160,107	資産運用支出	50,000,000
借入金等収入	0	その他支出	6,923,543
前受金収入	201,925,000	資金支出調整勘定	△35,832,456
その他収入	48,318,259	次年度繰越支払資金	481,729,491
資金収入調整勘定	△304,943,773		
前年度繰越支払資金	416,853,192		
収入の部 合計	2,246,722,923	支出の部 合計	2,246,722,923

消費収支計算書 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで (単位 円)			
消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	1,312,104,000	人件費	1,016,057,191
手数料	19,840,000	教育研究経費	621,724,083
寄付金	101,541,526	管理経費	132,961,292
補助金	401,049,773	借入金等利息	32,930,100
資産運用収入	1,859,453	資産処分差額	0
資産売却収入	0	徴収不能額	0
事業収入	5,147,000	消費支出の部 合計	1,803,672,666
雑収入	43,160,107	当年度消費支出超過額	42,751,885
帰属収入 合計	1,884,701,859	前年度繰越消費支出超過額	3,107,605,955
基本金組入額 合計	△123,781,078	基本金取崩額	0
消費収入の部 合計	1,760,920,781	翌年度繰越消費支出超過額	3,150,357,840

貸借対照表 平成24年3月31日 (単位 円)			
資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	5,380,907,219	固定負債	2,332,287,482
有形固定資産	4,599,310,019	流動負債	410,321,694
その他固定資産	781,597,200	負債の部 合計	2,742,609,176
流動資産	590,436,187	基本金の部 合計	6,379,092,070
		消費収支差額の部 合計	△3,150,357,840
資産の部 合計	5,971,343,406	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部 合計	5,971,343,406

セントポール大学と交流を深めました

(フィリピン姉妹校から来日)

10月22日(月)から31日(水)まで、姉妹校であるフィリピンのセントポール大学マニラ校看護学部から、学生17名と教員1名が来日しました。

前半は白百合女子大学の方々と東京で過ごし、後半は仙台での滞在を楽しみました。

仙台ではホームステイをしながら、大学祭や松島観光に参加したり、病院・福祉施設等を見学したりしました。

各地で様々な方々と交流を深め、有意義な10日間を過ごしました。



フォトコンテスト報告

フォトコンテストは今年で5回目になりました。例年通り、大学祭と同時開催ですが、今年は初めてひとつの教室すべてを利用して展示しました。応募点数もこれまでの最高の合計65点が集まりました。

この企画に、御協賛くださいました企業の皆様、学内の先生方に感謝申し上げます。また、二日間にわたって一生懸命手伝ってくれた広報学生スタッフにも感謝いたします。有り難うございました。学内外のたくさんの方々に投票していただき、以下の様に賞が決定いたしました。

<p>金賞 高田 沙耶香 「どんぐり3兄弟」</p> 	<p>銅賞 三宅 亜佑美 「夕方の風景」</p> 
<p>銀賞 渥美 寛子 「また明日」</p> 	<p>同窓会会長賞 阿部 夏美 「終わりのない道」</p> 
<p>近賞優秀賞 砂口 実穂 「白百合の秋空」</p> 	<p>DNP 優秀賞 佐藤 光恵 「桜」</p> 
<p>ハルコミュニケーションズ特別賞 浅岡 京子 「夕景のシルエット」</p> 	

紫山だより 女子大との連携行事

秋も深まり、紫山キャンパスが文字通り紫色に染まる機会が多くなりました。今回は、今年度、仙台白百合女子大学と連携して行っている行事について紹介します。

- 6月23日** 仙台白百合女子大学説明会(女子大で行っている姉妹校向けの説明会。今年は、紫山キャンパスの全教職員にも声をかけ、事務職員も参加)
- 6月25日** S-style 広告掲載 (S-styleに女子大の広告を掲載。一部に紫山キャンパスの情報も掲載)
- 8月17日** 仙台白百合女子大学模擬授業 (3年前にスタートしたもので、女子大4学科の先生4人が担当。午後には白百合女子大学の先生4人も来校)
- 9月1日 2日** 学園祭(中高が主体の行事に、女子大のブースを設け、先生方が2日間常駐して説明とグッズの販売)
- 9月3日 28日** 仙台白百合女子大学介護・心理福祉体験(人の心を理解するところをテーマにした女子大での講義と仙台白百合会の百合ヶ丘苑での実習も体験)
- 9月15日** 泉マルシェ(毎年、泉中央駅周辺で行われるマルシェで、女子大のブースをつくり宣伝するもの。紫山の幼小中高のパンフレットも配布)
- 9月25日** S-style 広告掲載 (S-styleに紫山キャンパスの広告を掲載。一部に女子大の情報も掲載)

(仙台白百合学園 紫山リエゾン・オフィス 室長 山田定道)

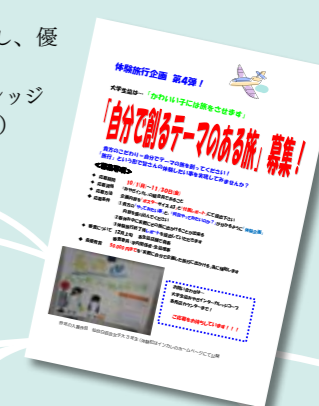
インカレ通信 「自分で創るテーマのある旅」 募集企画開催中

この企画は大学生協みやぎインカレが毎年開催し、好評を博している企画です。

学生さんに「自ら旅行したい・体験したい企画をプラン(費用&体験・コース)していただき応募していただくものです。昨年は仙台白百合女子大3年生「長崎ペンギンと触れる旅」、仙台高専専攻科2年生「台湾を訪ねて」、仙台高専3年生「東日本一周の旅」が優秀作品に選ばれました。実際に春休みには自らプランした旅行に出かけていただきました。

優秀作品に選ばれた学生さんには大学生協から5万円の旅行補助が贈呈され、実際に旅行し、体験し、後日報告していただきました。今年も10月から11月末まで各キャンパスで募集しました。

12月には選考会を開催し、優秀作品を選ぶ予定です。(大学生協みやぎインターカレッジ コープ 専務理事 青柳 範明)



白百合をふり返って



総合福祉学科教授 半田 芳吉



事務局長 佐藤 憲



人間発達学科教授 太田 将勝

この大学の四季は素晴らしい。もうすぐ正しい名前は知らないが、四季桜が人知れず咲く。淡い紅色、冬の寒さに耐えて咲く。春にまた染井吉野と共に咲く。私を迎えてくれたのはその春の桜である。オープンキャンパスが新鮮であった。出勤すると驚の笛鳴きがごだまし、空には鶯が舞う。さつきが咲く。夏は蝉たちが鳴く。実習巡回指導が日常化する。なぜか早めの蝸が鳴いて涼を運ぶ。晩秋は桜、銀杏の紅葉が心を癒してくれる。学生達は一回り大きく育つ。冬には南天や寒椿が雪を頂きじっとしている。水仙が咲く頃、就職、国家資格に挑み卒業していく。自然の豊かな環境とキリストの人間愛に育まれ巣立っていく。学生の成長は自分の成長でもあった。感謝。

7年前に学園からお誘いを頂き家族と相談を経て、本学に勤務することになりました。今日までさまざまな事柄に事務局の立場で向き合い、自分なりに精一杯務めてきた気がしますが、今は何か大きな忘れ物をしているような気がします。前職とは職場環境もかなり異なり、初めは大いに戸惑いましたが、これまでの7年間を振り返ると、保護者、教職員の皆様に支えられて何とか全うするところになりました。長きに渡り苦楽を共にお付き合いして頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。毎日の祈りを通して仙台白百合女子大学及び学校法人白百合学園が、今後とも「地の塩、世の光」として社会に貢献し続けられますように願っています。

この5年間、学長、学部長、学科長ほか、学科内外の諸先生をはじめ、事務局の皆さまに支えられ、ゴールに到達したというのが実感です。代々のゼミ生や学生諸姉にも、大変お世話になりました。いま、思い出されることは、故片岡照子学長が、カトリック関係のアイコンや隠れキリシタンの文献について、折りにふれ、ご教示くださったことです。懇篤なお手紙は私にとっては宝物です。末筆になりましたが、皆様方のご健勝をお祈りし、仙台白百合女子大学のご発展を衷心より祈念して止みません。

